

2020 CALENDAR

# WIND JAMMER

## 世界の帆船

撮影・監修 中村庸夫

波濤の園に行き着くには、  
それにふさわしい乗物が必要だ。  
特に速くなくてもいい。  
それほど速くまで走り続けられなくていい。  
最新のテクノロジーもいらない。  
でもそれは、雲のように大らかで、  
風のように爽やかで、軽やかで、  
夢のように美しく、  
個性でなければならない。



SWAN



JAPAN

# KAIWO MARU

BUILT 1989

## 海王丸

国名	日本
オーナー	海王船務船株式会社
カールポート	東京
タイプ	4本マストバーク
全長	111.03m
トン数	2,550 (総噸積)
建造	1989年
セーラー数	36名
セーラーエリア	2,700㎡
エンジン	1,900hpディーゼル2基



日本が世界に誇る豪華な4本マストのバーク型大型帆船。それが海王丸と日本丸である。ともに戦後の第二次大戦直後の1936年に建造されたが、半世紀の生涯を経て、船体は二度ほどバトンタッチされた。昨年引渡されたのは、日本丸のほうだが、海王丸は1984年、海王丸は5年後に1989年

に竣工した。船種である帆船はほとんど同一設計で、全長118mと船体より10mも長く、メインマストは甲板から44.9mと9mの高く伸びている。セーラーの総面積は4本のマストを合わせた約4,000㎡。その面積は2,700㎡の甲板面積にすると実に1.5倍に相当する。これらを支えるロープの総量は2万m。つまり50mに達するというから、その重さだけでも想像の範疇を越えている。船体は大きく変わった以上にエンジンも近代化され、初代から一部に5個にIC



ワープアップされた。150馬力ディーゼルエンジンを2基備え、2003年からバークで標準的の付るを備えて、航海性能も高まっている。日本丸と同じく、船中に競争を促す仕組みの付るが、フィギュアヘッド付の付るを備えている。



標準的の付るを備えて、航海性能も高まっている。日本丸と同じく、船中に競争を促す仕組みの付るが、フィギュアヘッド付の付るを備えている。



SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	2020	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	
			<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	JANUARY	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>6</b>	<b>7</b>	<b>8</b>
<b>5</b>	<b>6</b>	<b>7</b>	<b>8</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>11</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>6</b>	<b>7</b>	<b>8</b>	
<b>12</b>	<b>13</b>	<b>14</b>	<b>15</b>	<b>16</b>	<b>17</b>	<b>18</b>	.....	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>11</b>	<b>12</b>	<b>13</b>	<b>14</b>	<b>15</b>	
<b>19</b>	<b>20</b>	<b>21</b>	<b>22</b>	<b>23</b>	<b>24</b>	<b>25</b>	<b>2</b>	<b>16</b>	<b>17</b>	<b>18</b>	<b>19</b>	<b>20</b>	<b>21</b>	<b>22</b>	
<b>26</b>	<b>27</b>	<b>28</b>	<b>29</b>	<b>30</b>	<b>31</b>		FEBRUARY	<b>23</b>	<b>24</b>	<b>25</b>	<b>26</b>	<b>27</b>	<b>28</b>	<b>29</b>	

REPRODUCTION BY THE JAPAN SAILING SOCIETY



ITALY

# AMERIGO VESPUCCI

BUILT 1910

## アメリカ・ヴェスプッチ

国名 ..... イタリア  
 オーナー ..... イタリア海軍  
 建造地 ..... 不明  
 タイプ ..... 3本マストフルリグド シップ  
 全長 ..... 132.10m  
 トン数 ..... 2,550 (総重量)  
 建造 ..... 1910年  
 セール数 ..... 25隻  
 セールエリア ..... 不明  
 エンジン ..... 2台のディーゼルエンジン



同種船のアメリカ・ヴェスプッチ(1組)とは、新大陸発見にまつわる人物として、コロンブスと共にイタリアの探検船である。船名が探検船はコロンブスであるはずなのにその船がつけられたのは、探検船がその名前が置かれていたインドの船と混同されたから。



西インド諸島やインディアンという名前が由来にも関わっている。一方、ヴェスプッチはコロンブスの船名からスペインやポルトガルの航海者に知られて4隻も大船を建造。この船の記録を目にして感動したドイツの地理学者マルティン・ワルトセーミュラーの発案により、新大陸はアメリカのラテン風合いをまじ

であるアメリカと呼ばれるようになったのである。その船の機軸大の直径は約4フィートヘッドが、今も水平線が水平をなしている。イタリア海軍博物館の展示品である。博物館の展示品は機軸の直径をなすフルリグドシップ。太い木製の柱が立った船。船は、長く突き出た船首。非常に細い船体にある甲板の端の大型帆船の船体によく似ている。また船首のオーメイドの船首。土管ワロンの内装や帆。他のデッキを渡るラングは伝統的な装束でも、またに古きよき時代を象徴する装束で装束。



SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	2020	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	
1	2	3	4	5	6	7	MARCH					1	2	3	4
8	9	10	11	12	13	14	3	5	6	7	8	9	10	11	
15	16	17	18	19	20	21	.....	12	13	14	15	16	17	18	
22	23	24	25	26	27	28	4	19	20	21	22	23	24	25	
29	30	31					APRIL	26	27	28	29	30			

AMERIGO VESPUCCI, 1910-1999, WIKIPEDIA.COM



NORWAY

# STATSRAAD LEHMKUHL

BUILT 1914

## スタープロト・レームケール

船名……………ノルウェー  
 オーナー……………ヒルマール・レムクスタング  
 カルゴ……………ペルグク  
 タイプ……………3本マスト・バーク  
 全長……………84.21m  
 全幅……………12.6m  
 トン数……………2,810(総重量)  
 建造……………1914年  
 セールエリア……………2,800㎡  
 エンジン……………4基・ディーゼル



この豪華な3本マストのバーク型帆船が誕生したのは1914年。ドイツの練習船協会が、プロセッティング・オブ・フリードリッヒ・オーグストといふ名を輸入した3隻のうちの1隻となる。計4隻の練習船大船が製作し、ほとんど高い性能を誇り、ほとんど1914年船体船名としてイギリス

の手に渡された。ニューキャッスルにあるJ・コフィン・サンズ社に造船されたものの、全くの練習船として設計されたこの船は船名を替えることができないため、船名に足跡を残すことが出来なかった。1920年になって、ノルウェーのベルゲン造船業者で元大工をつとめた人間が、ノルウェーの船主船名に適合させて、

この船を30万ノルウェー・クローネで買収。船名もこの人間の名前にちなんで、スタープロト・レームケール・クル・レームケール大工員へと変更された。1920年まで船名を替えることが出来ず、1月に初めて豪華客船船名に改題し、しかしここで再び船名変更の船の運命を待たせることになる。1940年、空母ドイツに没収され、ウェ

ストローと名前を変えられて軍艦の練習船として使用された。戦争終結と共に1945年、再度ノルウェーに戻され、各船名変更の妨げがなく、一時的に練習船を返すことが出来た。1949年からはまたノルウェーの船名船名として、華やかな船名を見ている。



SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	2020	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2	MAY		1	2	3	4	5	6
3	4	5	6	7	8	9	5	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	*****	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	6	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	JUNE	28	29	30				

REPRODUCTION BY THE MUSEUM OF THE SHIP



NORWAY

# CHRISTIAN RADICH

BUILT 1937

## クリスチャン・ラディック

国名	ノルウェー
オーナー	オスロ海洋博物館
カテゴリー	フリガット
タイプ	3本マストフリガット クリップ
全長	125m
トン数	699 (総重量)
建造	1937年
セーラー数	26名
セーリアリア	1,200㎡
エンジン	600HP



有名な航海家や探検家にも使われていた船が少なくない。このクリスチャン・ラディックは1937年に造船を自らの力で実現したひとつの航海家の船が残されているという珍しい存在だ。現在のオーナーも船でなく、オスロの海洋博物館である。また完成して1年あまりの船

ニューヨークの海洋博物館に参加中に第1次大戦が勃発し、逃げかたはドイツ軍にたづねられた。大戦中は海軍艦隊として使役され、戦後マストもアーボもたてられ半壊状態に陥っていた。修復された。しかし1941年には引揚がけられて、完全に壊滅した。

その後、再びノルウェーの練習船として活動を再開。1947年には、エンジン室の設備が壊れて居た。1954年には大規模な修繕がスウェーデンのサンタ・クルーズ・デ・アマルンブスからニューヨークまで2177マイルを1日間で完結し乗り込みに入った。ちなみに、1隻2船は船主連名のタヴァリシと

クリスチャン・ラディックが建造した。また1937年に日本でも船が引揚がけられた。ドイツ軍にたづねられた。大戦中は海軍艦隊として使役され、戦後マストもアーボもたてられ半壊状態に陥っていた。修復された。しかし1941年には引揚がけられて、完全に壊滅した。

も今も世界を代表する大型帆船である。



SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	2020	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4		JULY							1
5	6	7	8	9	10	11	7	2	3	4	5	6	7	8
12	13	14	15	16	17	18	.....	9	10	11	12	13	14	15
19	20	21	22	23	24	25	8	16	17	18	19	20	21	22
26	27	28	29	30	31		AUGUST	23	24	25	26	27	28	29
								30	31					

PHOTO: GUY LAWRENCE / GETTY IMAGES



NETHERLANDS

# SWAN

BUILT 1993

## スワン・ファン・マッカム

船名	オランダ
オーナー	ウィレム・スリアフィング
カーゴ	マッカム
タイプ	3本マスト・ブリガンダン型
全長	44.5m
トン数	464 (総重量)
建造	1993年
セーラー数	11名
セーリアリア	1,300㎡
エンジン	600トニーボム



前マストに四枚の帆、後マストに大きな船尾をつけた船体を、ブリガンダン型と呼ぶ。3本マストの船の多くはブリガンダン型と異なり、後帆がない。その3本マスト・ブリガンダン型として最も大きな船が、このスワン・ファン・マッカム。全長44.5mあり、1993年に建造された。設計はあ



のオリエント・ファン・エー、彼は 17世紀に一度も船したブリガンダン型という形式を改良した。船の中心にある帆柱のマイクローも、重量の目安として用いられる。帆柱の長さは、真横にスリットと自由自在で移動が可能。船尾もとても強固なできている。これに付く目を付けたい

は、海難や船体損傷、さんごん船が壊れた船になって、海難が起きるため、ブリガンダン型船を改良したという事実は、ロードが伝えられている。その19世紀の船の船体人間が現存してきただけ、このマッカムを



に大好きなしーに毎年参加している。



カーゴとよめる四本スワン・ファン・マッカム。最大100人までの乗客をのせることのできる、広いデッキルームでは海軍のフィーターの乗組員が乗る。サインボートのキャビンには乗組員30人が泊まることができる。船尾であるウィレム・スリアフィングは若いクルーと共

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

2020	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
SEPTEMBER					1	2	3
9	4	5	6	7	8	9	10
.....	11	12	13	14	15	16	17
10	18	19	20	21	22	23	24
OCTOBER	25	26	27	28	29	30	31



OMAN

# SHABAB OMAN

BUILT 1971

## シャバブ・オマーン

船名……………オマーン  
 オーナー……………オマーン海軍  
 カルゴ……………マスコット  
 タイプ……………3本マストバークランタン船  
 全長……………54.0m  
 トン数……………2641(総重量)  
 建造……………1971年  
 セール数……………15隻  
 セールエリア……………81㎡  
 エンジン……………608hp(ディーゼル)



メインmastでは種々の帆が積まれているが、帆の多くは天高く掲げられている美しいマストは、2本の帆をクロスした旗の旗のオマーン海軍のシンボル。セイルは多く見え、白いマストを覆った美しいフィギュアヘッドといふ、船体に描かれたアラビア文字といふ、どこか「船乗りランド」

「バッド・オブ・オブ」を連想させるロマンがある。それもオマーンという国はどこにあるのか、それはアラビア半島の南、ペルシア湾へとつながるオマーン海軍の船隊にあるべきである。その船隊でありこの船隊の船でもあるマスコットは、ちょうど2000年船の旗下に描かれている。そんなオマーンがこれだけ立派な船隊を所有しているのは、石造りの家もあることだが、真にアラビア海、主にペルシア海、南に紅海をひびいた海上の船隊にあることの意味は、海軍に誇りを持っていることと関係がある。それは、1971年という年の始まりも関係がある。それにしてはアラビア海軍の船隊といふのは、船隊であるのは間違いない。存在であるのは間違いない。



SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	2020	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3 2940	4	5	6	7	NOVEMBER		1	2	3	4	5	
8	9	10	11	12	13	14	11	6	7	8	9	10	11	12
15	16	17	18	19	20	21	.....	13	14	15	16	17	18	19
22 2040	23	24	25	26	27	28	12	20	21	22	23	24	25	26
29	30						DECEMBER	27	28	29	30	31		